

第2回横浜市水道事業の将来を考える懇談会の概要

1 懇談会の日時及び場所

平成26年7月31日（木）15時～17時 水道局本庁舎10階大会議室

2 出席者

浅見 真理 氏（国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官）
石井 晴夫 氏（東洋大学 経営学部経営学科 教授）
今泉 マユ子 氏（横浜市水道局水のマイスター）
臼杵 ひろみ 氏（株式会社ファンケル 社長室長 兼 CSR 推進事務局長）
佐藤 裕弥 氏（株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 地域経営研究室 室長）
外山 薫 氏（横浜災害ボランティアネットワーク運営委員）
山崎 洋子 氏（作家）
山藤 竜太郎 氏（横浜市立大学 国際総合科学群 人文社会科学系列 准教授）
（横浜市水道局 水道局長、全部長（9人）、経営企画課長、経営企画課担当係長）

3 内容

水道に関するお客さま意識調査＜結果速報＞、20～30年後の水道事業を取り巻く環境

4 主な意見等

(1) 水道に関するお客さま意識調査＜結果速報＞

○アンケートの結果からどのようなことを感じたか。

- ・水道水を飲まなくなったのは、人々の生活が贅沢になったためではないか。ボトル水はブランドイメージが良く、水道水よりありがたみがあるのではないか。
- ・様々な条件が異なる中で、飲用水だけに注目して、ペットボトルと水道水を比較する必要はないのではないか。

○安全・おいしさをどこまで追求すべきか。

- ・水道の将来は、飲み水、体に触れる水、その他の水のようにより多様化し、3種類を各々の供給方法で対応することが求められるのではないか。
- ・3種類をしっかりと分けて管理することは技術的にもコスト面でも困難なので、ある程度良質な水を1種類提供することが一番効率的。
- ・カナダ・バンクーバーでは、「バンクーバーの水道水は安全なのでぜひお飲みください」と案内して、ホテルにはペットボトル水を置いていない。
- ・「おいしい水」とは、人によって違うのではないか。

(2) 20～30年後の水道事業を取り巻く環境

- ・グローバルな視点から、企業は海外市場で求められる節水性の高い商品開発を進めており、それが国内市場にも入ってきている状況。
- ・高齢化で郊外の戸建ての家から中心部のマンションに引っ越す人が増えるのではないか。そこに向けての対策が必要。
- ・研究開発などに関しては、企業はキャッシュに余裕のある時期に先行投資を行う。水道事業でも今のうちに新たなことを考えるべきではないか。
- ・技術、経営、法律・制度の3つのシステムを融合・統合した考え方が、今後の水道事業には必要である。
- ・7年保存の水缶を世界に発信してほしい。